

愛犬の身を守る方法

「特集」 異常気象や地震に備えて

災害大国日本――。

私たちが襲う災害は地震だけではありません。

今年の夏も、大雨、ゲリラ雷雨、酷暑など、さまざまな災害が日本各地を襲っています。

「異常気象」という言葉もはや日常化している現在、愛犬を守ることができるのは飼い主しかいません。

「防災」を一歩進め、

「危機管理」について考えてみたいと思います。

総監修… 林 良博

協力… 芳賀晶子 イラスト… ジサワ ミカ



(写真上：NPO 法人アナイス 写真下：福井県越前市役所)





今年もすでに、台風や豪雨、雷などのさまざまな自然災害に見舞われています。このような自然災害から愛犬をどう守るか、国立科学博物館・林良博館長と一緒に考えてみました。

今後起こりうる気候の変化や自然災害に 愛犬家はどうか対処すべきか

**近年、年平均気温は上昇し、
大雨の日も増加**

「異常気象」や「地球温暖化」という言葉が毎日のようにマスコミから聞こえてきますが、気象庁気象研究所の藤部文昭氏が「長期観測データから見た異常気象」について講演學士會会報No.907（2014・IV）しています。

藤部氏によると、日本の降水は、「この一〇〇年で大雨日数（一〇〇mm以上）は約二五％増加し、（中略）降水日数（一mm以上）も一四・五％減少」、つまり、大雨は増え、一方で雨の降らない日も増えているということです。その理由として気温の上昇が考えられており、「前世紀末と比較して、年平均気温は全国的に約三度上昇」、大気がより多くの水蒸気を含むようになったため、大雨が降りやすくなり、一度大雨が降ると、大気中に再び水蒸気がたまるまでに時間がかかって雨の降らない日が増

えたと考えられるということです。

一方、日本の竜巻については1961年以降の統計があり、近年、発生件数は増えているように見えるものの、「統計方法の変更で海上の竜巻も数えられるようになった」と、しかし「突発的な現象ということで竜巻に対する関心が高まって」いることを藤部氏は指摘しています。

台風については、「気象庁の公式統計が始まった一九五一年以降、台風は若干減少しているようにも見え」るが、『地球温暖化が進むと、台風の総数は減る』と言われて「いること」「ただし、台風の総数は減っても、勢力の強い台風は増える傾向にあると考えられて」いるということです。「地球温暖化」や「高温や大雨などの異常気象の増加」は、現在、科学的な事実として認識されています。しかし、豪雨や雹、大型台風などの異常気象は過去にもたびたび起きているのです。「メディアは刺激の強い映像をセンセーショナルに報道す

るので、視聴者は異常な現象が増えたような印象を持ってしまう」ことを藤部氏は指摘しています。

愛犬家に求められる 情報収集力と判断力

藤部氏の講演からの引用が長くありませんでしたが、大切なのは、現在はい前よりも情報や通信が発達しており、大雨や台風、洪水、高温などの情報も得やすくなっているのですから、そうした気象情報を積極的に役立てて備えたいということです。

愛犬家の災害対策を考える場合、まず問題になるのは、どこかに避難するか、家にとどまるかという選択です。人間だけなら身一つでいつでもどこへでも避難できますが、愛犬

の場合、愛犬を連れて避難することは簡単ではありません。そのため、必要な情報を得て冷静な判断をすることがより大切になってくるのです。現在は、遠くで発生した台風がいつ頃どのあたりに来て、どのくらい

自宅の安全化と防災グッズで 個人レベルの災害対策を

現在は公的なレベルでのペットの災害対策も進められており、同行避難が基本になっていますが、地震などの大規模災害ではペットの収容数にも限度があります。とくに東京や大阪などの大都市では、すべての飼い主が同行避難するほどの準備体制はまだ整っていないといえます。

そのため、できるだけ個人レベルでの災害対策を考えておく必要があります。

まず、家そのものが崩壊や流される危険性がない限り、自宅の安全な空間にいるのが安心です。散歩中になんらかの災害に遭う場合もあるでしょうが、愛犬を連れてまずは自宅に戻ることが前提となります。

そのためにも、家の耐震補強や家具の転倒防止などの対策を講じて自宅を安全化しておきましょう。

また、人間用・愛犬用の防災グッズも必ず用意しておきましょう。とくに大切なのは食料品と水で、最低限3日分は必要とされています。

3日分すなわち72時間というのは災害時における一つの目安で、これまでの例をみると、ほとんどの場合、それまでに何らかの支援や対応が取られています。備蓄するにも限度がありますから、72時間分を備えておくことが最低限のレベルといえるで

の雨が予想されるかという情報も、ピンポイントで詳細に報道されます。そうした情報をしっかりと把握しておけば、避難の心構えや荷物などの準備も早めに行えます。

大雨が降れば土砂災害は起こりやすくなります。大雨日数が増えた現在、そうした災害の危険性は以前よりも高まっているわけですから、避難すべきときはすみやかに避難したいものです。

ハザードマップも利用するとよいでしょう。いざというときに備え、近づいては危険な場所、避難所、自宅から避難所までの安全な道なども確認しておけばより安心です。

ほかにも、雷でパニックを起こす犬は少なくありません。自宅や散歩中に雷が鳴れば、突然走りだして飼い主の手から離れて交通事故に遭う可能性もありますし、不安感から攻撃的になって人を咬んでしまうこともあります。雷注意報が出ているときは、いつも以上に注意が必要です。

しょう。

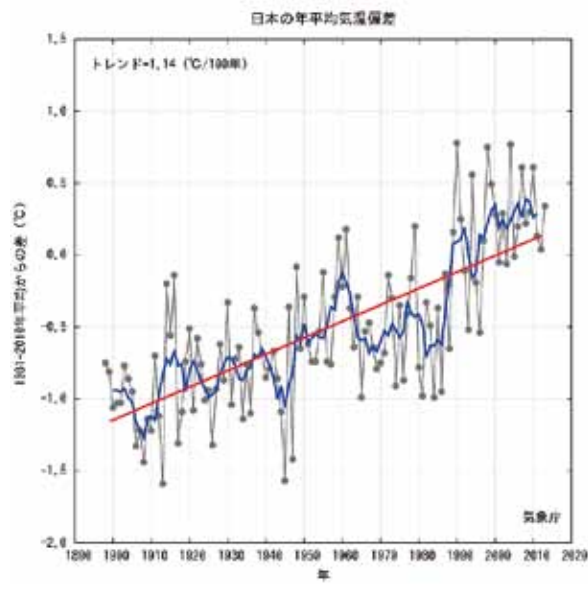
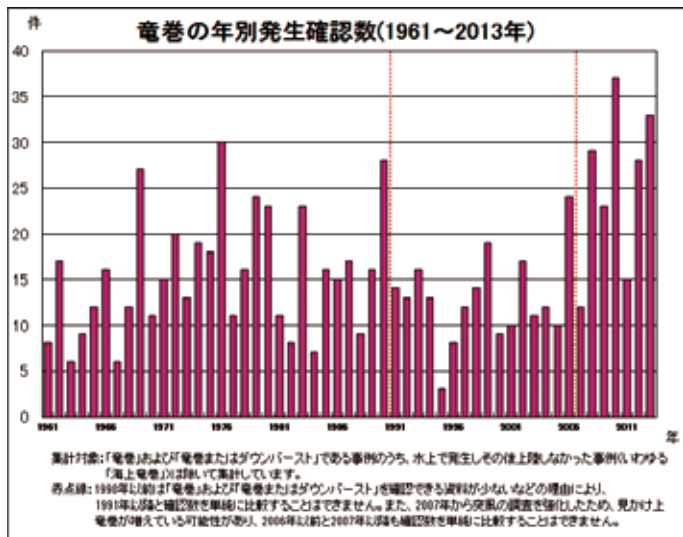
さらに、テントも用意しておくといよいでしょう。これまでの災害では、避難所に入らずに車の中で過ごしたという人が多く見られました。テントは車よりも広く使えますし、ある程度の雨風雪や暑さ寒さなどものしのごことができます。現在はさまざまな種類のテントがあり、小型で簡便なもの、愛犬との旅行やドライブなどの際にも役立ちます。

災害時に備え、 しつけや絆をしっかりと

何らかの災害が起きると、飼い主さんだけでなく、愛犬もパニックに陥りやすくなります。人間の場合は、一度パニックに陥っても、頭で理解して落ち着くことができますが、犬はそれができません。そのため、飼い主に対する依存度が高くなります。飼い主はふだん以上にしっかりとすることが求められるのです。

また、災害時は驚いて逃げ出して行方不明になるペットが多くいますから、日頃から、迷子札やマイクロチップなどの装着はもちろんのこと、呼んだら飼い主のもとに来るなどのしつけをしつかりしておくことも大切です。

極言すると、災害時こそ、ふだんのしつけや絆、飼い方が試されるのです。しつけや社会化を通して愛犬との絆を強めておきたいものです。



(資料：気象庁ホームページより)

愛犬を守るのには飼い主だけ

「同行避難」の前に 飼い主ができること

愛犬を守るために飼い主ができることは何か——、東日本大震災や新潟県中越地震、三宅島噴火災害などの動物の救護活動をしてきた平井潤子さんに、飼い主として知っておきたい防災知識についてお聞きしました。

協力・平井潤子

「自宅避難」など、 いろいろな避難のカタチがある

これまでの災害経験から、環境省では『災害時におけるペットの救護対策ガイドライン』を作成、飼い主とペットの同行避難を推奨しています。地方公共団体の中には、地域防災計画で同行避難を前提とした体制づくりが進められているところもあります。

しかし最近になって、地域特性や住環境、災害の種類などにより、

さまざまな避難のありかたが検討され、避難所のスペースに限りがある場合は、自宅で避難するという考え方もあります。自宅が無事で安全であれば、家族一緒に自宅で過ごすか、ペットだけを自宅に置いて毎日世話に戻り、必要な物資や情報を避難所から提供してもらうというスタイルです。

また、集合住宅では住民が協力して、ペットたちを集めて管理するという方法も考えられています。

基本は同行避難ですが、難しい場

合もあると考えて、自宅の防災化・安全化を図るほか、地理的条件など、いろいろな状況を想定し、避難方法についてコミュニケーションしておくことが求められています。

犬仲間のネットワークや 地域とのつながりが大切

近所の犬仲間や地域の人たちとのつながりは大切にしたいものです。電話番号やメールアドレスなどの交換をし、緊急時にどう協力し合えるか話し合いもしておきましょう。飼い主が不在のときに災害が起きても、様子を確認してもらえたり、犬を預かってもらえたりできる人がいれば心強いものです。また、一緒に避難所に行く場合は、ペットの受け入れについての提案や要望も、犬仲間が集まれば交渉しやすくなります。

また、日頃から一緒に地域の避難訓練や消防団の活動、あるいは町内会のさまざまな活動やイベントなどにも積極的に参加するなど、地域で犬を受け入れてもらうために、飼い主さん自身がコミュニケーションをはかるように努力をしましょう。

そのほか、同じ犬種の飼い主さん同士がインターネットやイベントな

どを通じて知り合うこともあり、その中で信頼のおける仲間と災害対策についてぜひ話をしてみましょう。台風などが予想されるときは、前もって預けあうなどの助け合いができる可能性もあります。

動物と共生するために 求められていること

東日本大震災では、気持ちが落ち込んでも、ペットの世話をすることで生活のリズムを作ることができたなど、動物との共生が災害を乗り越える大きな力を与えてくれたという飼い主さんがたくさんいました。

しかし避難所には、家族やペットを亡くした人もいます。動物が苦手な人や、アレルギーのある人もいます。このような人がいることも考えて十分な配慮することが必要です。

避難所に受け入れてもらうためには、鳴き声やにおいなどのトラブルを避けるため、人間と動物の「住み分け」や「動線分離」などを提案する必要もあるでしょう。

災害を乗り切るために 飼い主さん自身ができること

災害を乗り切るには、「自助」「共助」「公助」の3つが必要だといわれています。しかし、災害発生時、自分の家族や愛犬を守ることができるのは自分だけです。できるだけ「自助」に重きを置くようにしましょう。自分たちだけでは対応できないとき、頼りになるのが地域での助け合い、共助で、国や地方公共団体による公助は最後になります。

まずは、動物の支援物資が何日も来ない場合に備えるためにも、日頃からフード類やペットシートなどの必需品を十二分に用意しておくようにしましょう。愛犬の薬や療法食など愛犬の命や健康に係るものは、必ず余分に用意し、薬品名や用量をメモするか、携帯電話やスマートフォンでパッケージを撮影しておくことが安心です。

また、トリミングサロンなどに預けているときに災害が生じる可能性もありますので、店側の対応についても確認しておきましょう。

そのほか、日頃から家族単位で避難訓練を実施するなど、飼い主さん自身が危機意識をもち、防災対策を実践することが大切ではないでしょうか。



1



2



3



4

- 1 フードボウルはないけれど、首輪にドライフードを入れることで少しでも食べやすく工夫する飼い主さんの愛情。
- 2 飼い主さん手作りのダンボールハウスに入るシー・ズー。
- 3 仮設住宅の一角で。飼育ランニングチェーンによる工夫がされていた。
- 4 避難所である中学校の渡り廊下には、たくさんの犬が繋がれており、愛犬のそばには飼い主からのメッセージ（「別の場所に動かさないでください。」等）が貼ってあった。



避難所では愛犬のそばに飼い主カードを掲示しましょう。

（写真：NPO 法人アナイス）



日頃からの危機管理意識を持つことが大切

自然災害によるリスクを減らすために私たちはどうすればよいのか――、防災・減災を研究し、災害に対する弱点を発見するためのワークショップを主宰している藤本一雄先生に、そのポイントをお聞きしました。

協力・藤本一雄

危機管理の大切さ

防災対策といえば、まず食料や水など、避難生活に必要な物資を備えることだと思いきや、多くの方が思いがけない。しかし、厳しい言い方ですが、これは自分が助かっていることを前提とした対策であり、まさに命が危険にさらされた瞬間、つまり、災害発生時に具体的にどう行動すべきかという危機管理対策にはなっていないのです。最も肝心な部分である対策がなければ、予想もしないことに巻き込まれてしまうことがあります。

災害時には、まず自分は何を、誰を真っ先に守るべきかを第一に考え、危機を回避するリスクマネジメントの考え方で備えることが大切です。

過去と将来の災害について知る

大災害があっても、人々の記憶からは次第に薄れてしまいます。これまで災害を経験した人たちの貴重な経験から災害対策を考えていくことは大切ですが、今後ともこれさえしていれば大丈夫ということはありません。

災害は繰り返しやって来ます。想定外の災害もあり得ると考えて備える必要があります。そこでまず地元の災害の歴史を調べておくことをぜひお勧めします。また、将来起こりうる災害については、ハザードマップや被害想定といった資料が作成されており、誰でも入手できるようになっています。それを早めに取り寄

せ、地域の防災に関する特徴を事前に知ることが大切です。

真っ先に守るべきものは「命」

災害発生時は「最優先に何をするべきか」を意識して行動することが大切です。

人は災害時に何か悪いことが起きると、「ああしておけばよかった」と後悔するものです。東日本大震災の被災者のお話を総合すると、「後悔」の気持ちは大きく2つに分けられると思います。

ひとつは、「失敗はしたけど、次はこうしよう」と思えるもので、いつまでも心に引きずらないもの。もうひとつは、大切な人を亡くしたり、自分の行動を悔いたりして、心に深

くつらい後悔が残るものです。最もつらいのは「大事な人を救えなかった」という思いです。

「財産はなくなりましたが、家族の命が助かってよかった」とは言っても、「家族の命は失われたけれども、モノが残ってよかった」とは誰も言いません。生き残った人がどんな感情を抱くかを知ることが大切です。

本当に必要な災害対策とは、後悔しないで済むように行動することであり、「危険にさらされた命を守る」ことなのです。

最悪の状況を避けるために「対策」を立てる

そこで、自分の人生には決して起きて欲しくない危機をどうすれば回避できるのでしょうか。まず左図の

自分の弱点を発見するための『イメージトレーニング』

実際の災害は、右側のさまざまな原因のために、左方向の「最悪の結果」へと進行します。そこで、これを時間軸に逆らって考えることで、あらかじめ原因を突き止め、最悪の結果を回避する対策を講ずることができるようにするものです。

【トレーニングの方法】

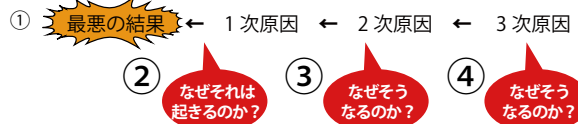
- ①まず、災害による最悪の結果をイメージします。
- ②それが起こる理由や、1次的な原因を考えます。
- ③②が引き起こされる2次的な原因を考えます。
- ④③に至るきっかけとなる、3次的な原因を考えます。
- ⑤原因の中に共通する項目があれば、それがあなたの弱点であり、今すぐに解消策を講じるべきであると分かります。



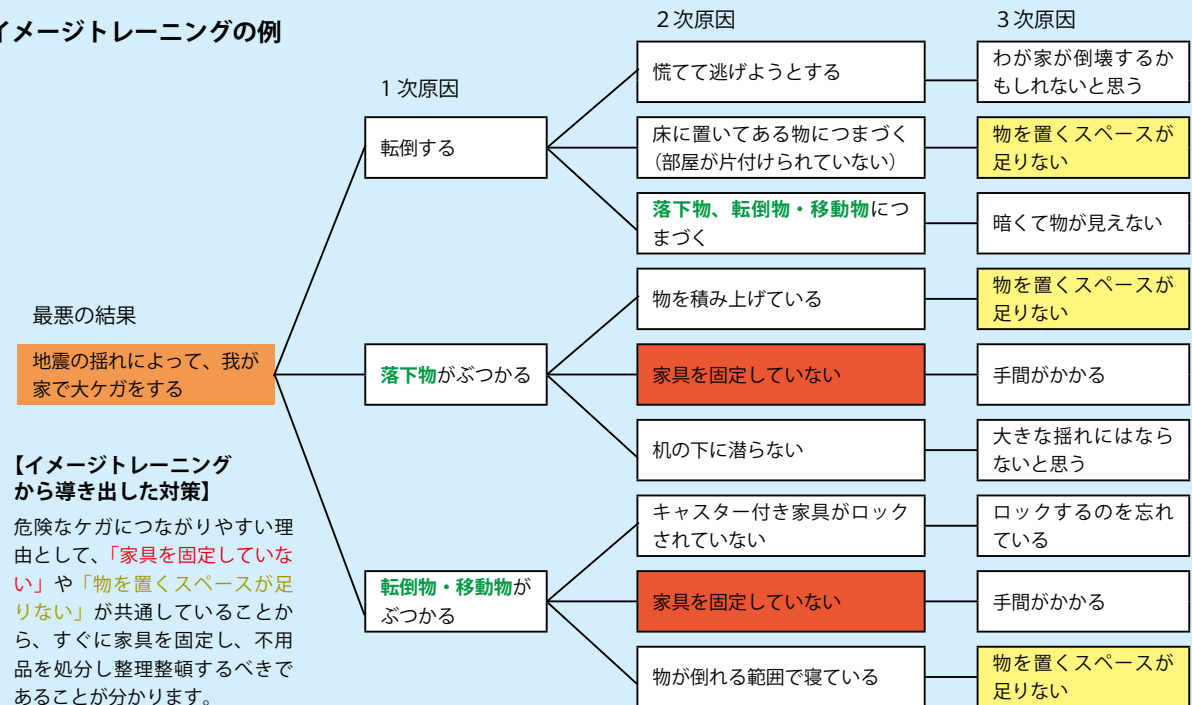
みんなで行うワークショップは、客観的に考えることができるので、弱点を見つけやすいというメリットがあり、お勧めします。



イメージトレーニングでは、原因から結果が起こるという、←←←方向の時間軸ではなく、逆に時間をさかのぼって、→→→の方向へと考えていくと、弱点が見えてきます。



イメージトレーニングの例



【イメージトレーニングから導き出した対策】

危険なケガにつながりやすい理由として、「家具を固定していない」や「物を置くスペースが足りない」が共通していることから、すぐに家具を固定し、不用品を処分し整理整頓するべきであることが分かります。

最悪の出来事(結果)が起こる流れをよくご覧下さい。じつは、これが自分の隠れた弱点を見つけ出し、効果的な対策を知るためのトレーニングになるのです。

原因から結果に至る流れを時間軸に沿って考えるのではなく、結果が起きた理由について「なぜそうなるのか」と時間をさかのぼるようにして繰り返し問いかけることで、大元の原因につき当たります。この原因が弱点であると考え、これを解消しておけば、重大かつ深刻な結果を回避できるわけです。

このように、危機を回避する対策は、定期的に考え続け、弱点や盲点がないかを常に家族や周囲の人たちと共有することが大切です。

そして、災害が発生したら、すぐに頭を災害モードに切り替え、対策で決めたとおりに場合によっては臨機応変に行動することが大切です。

災害前からできる限りの対策を講じていれば、たとえその対策が失敗に終わっても、「これぐらいで済んでよかった」「やれることはやった」と前向きに受け止めることができます。事前に何も対策をとらなければ、「あのとき、こうすればよかった」という大きな後悔につながります。

台風・豪雨

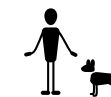
非常に強い低気圧を伴う台風やゲリラ豪雨は、数時間に及ぶ大雨が続き、増水や洪水など甚大な被害をもたらします。前もって避難場所・経路を家族全員で確認し、早めに安全な場所に避難しておくことが大切です。とくに低地や溪流沿い、河川敷、川の中州や親水公園、地下トンネルを通る道路などでは、急激な増水による浸水被害の危険があります。川の流れて水かさが増えてきた、枝などが濁った水とともに流れてきたなど、異変を感じたらすぐに水辺から離れましょう。地下室や地下街などは浸水の危険がありますので注意しましょう。

津波

強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら、津波が来ると考えて、直ちに川沿い、海沿いから離れて、近くの高台や避難ビルの安全な場所に避難してください。津波警報によって予想される津波の高さなどの関連情報を確認して、解除されるまでは安全な場所から離れてはいけません。



いざという時、どうする!!
危険の回避法
これまで経験したことがないような災害が差し迫ったとき、回避する方法はさまざまです。気持ちを落ち着かせて適切な行動をとり、災害から愛犬とともに身を守ってください。



気象庁が特別警報・警報・注意報を発表したときにとるべき行動

テレビニュースなどの気象情報については、常に最新情報を入手しましょう。まだ特別警報が発表されないからといって安心することは禁物です。時間を追って段階的に発表される気象情報、注意報、警報を活用して、早め早めの行動をとることが大切です。

また、特別警報が発表された場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や市町村から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

気象庁が発表する情報			市町村の対応	住民の行動
注意・警戒の対象とする災害				
土砂災害	浸水害	洪水害	・担当職員の連絡態勢確立 ・気象情報や雨量の状況を収集	気象情報・空の変化に注意 ・周りより低い場所など、危険箇所を把握 ・避難場所や避難ルートを確認しておく
大雨に関する気象情報				
大雨注意報		洪水注意報	・注意呼びかけ ・警戒すべき区域の巡回	最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を 雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動 ・気象情報や外の様子に注意 ・非常用品や避難場所、避難ルートを確認 ・窓や雨戸など家の外の点検
大雨に関する気象情報				
大雨警報 (土砂災害)	大雨警報 (浸水害)	洪水警報	・警報の住民への周知 ・避難場所の準備・開設 ・必要地域に避難準備(要援護者避難)情報 ・応急対応態勢確立 ・必要地域に避難勧告 ・避難呼びかけ ・必要地域に避難指示	自治体が発表する避難に関する情報に注意し、必要に応じ速やかに避難
大雨に関する気象情報				
大雨特別警報 (土砂災害)	大雨特別警報 (浸水害)		・特別警報が発表され非常に危険な状況であることの住民への周知 ・直ちに最善を尽くして身を守るよう住民に呼びかけ	ただちに命を守る行動をとる！ 避難場所へ避難するか、外出することが危険な場合は家の中で安全な場所にとどまる 「住民の位置」や「住居の構造」、「既に浸水が生じている状況なのか否か」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。

(気象庁ホームページ「防災気象情報とその効果的な利用」を元に作成)

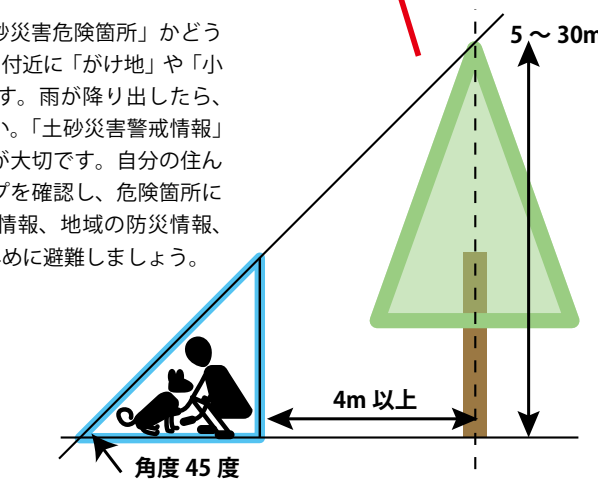
土砂災害

日ごろから住んでいる場所が「土砂災害危険箇所」かどうかを確認しましょう。そうでなくても付近に「がけ地」や「小さな沢」などがあれば注意が必要です。雨が降り出したら、土砂災害警戒情報に注意してください。「土砂災害警戒情報」が発表されたら早めに避難することが大切です。自分の住んでいる地域の土砂災害危険箇所マップを確認し、危険箇所に近い場所に住んでいる場合は、気象情報、地域の防災情報、避難勧告などに従って安全な場所に早めに避難しましょう。



竜巻

気象情報で「竜巻などの激しい突風のおそれ」から段階を追って「竜巻注意情報」が発表されたら、約1時間は常に最新情報に注意してください。非常に速い速度で移動するため、風が強くなると屋根瓦などが飛んでくることがあるので注意しましょう。間近に迫ってきたら、屋外にいる場合は、頑丈な建物の物陰に入って小さくなること。屋内では、家の窓や雨戸を開め、カーテンを引いて窓から離れ、1階の窓のない部屋に移動し、丈夫な机の下などに隠れて頭や首を守りましょう。



雷

雷鳴が聞こえたり、真っ黒い積乱雲が近づいてきたり、急に冷たい風が吹いてきたなど、雷の前兆を感じたらすぐ安全な空間に避難しましょう。鉄筋コンクリート建築、自動車、バス、列車の内部は安全です。近くにないときは、電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを45度の角度で見上げる位置、かつ物体から4m以上離れた範囲に姿勢を低くして退避します。開けた平地、木の真下にいるのは危険です。木のそばでは幹から4m以上、その枝や葉などからも2m以上離れていることが大切です。雷の音が聞こえなくなっても20分以上経過するまでは安全な場所で待ちましょう。

(資料：気象庁ホームページ「雷から身を守るには」、「竜巻から身を守る〜竜巻注意情報〜」(リーフレット)、急な大雨や雷・竜巻から身を守るために「積乱雲が近づいてきたら・・・」、「急な大雨・雷・竜巻 一ナウキャストの利用と防災」(リーフレット)、「津波警報が変わりました」(リーフレット)、「津波から命を守るために」(リーフレット)を元に作成。/政府広報オンライン 暮らしのお役立ち情報「大雨や台風の気象情報に注意して「早めに防災対策・避難行動を行いましょう」、暮らしのお役立ち情報「土砂災害の危険箇所は全国に52万箇所!土砂災害から身を守る3つのポイント」を元に作成。)

必ず備えておきたい、非常用グッズ



夏になると毎日のように日本のどこかで大雨洪水警報や避難勧告が出されます。災害は他人事ではありません。いつでもすぐに避難できるよう準備しましょう。

これだけには必要！

家族と愛犬を守る非常グッズ

避難所では、場合によってはそこで何日か過ごす必要があります。安全に避難するための道具や家族とペットの生活必需品の数日分は、すぐに持ち出せるように準備しておきましょう。

また、支援が来るまでに何日もかかる場合もあります。人間用の支援物資は届いても、ペット用品が届かない場合もあります。自宅には常に十分な量の備蓄品を置いておくほうがいいでしょう。



愛犬用避難グッズ

- ☐フード（持ち出し用と備蓄用を多めに）
- ☐水
- ☐折りたたみ食器
- ☐首輪／リード（迷子札・犬鑑札・狂犬病予防接種済票をつける）
- ☐トイレシート、または、排泄物処理セット（スコップ・ビニール袋）
- ☐常備薬
- ☐健康手帳（愛犬の写真コピー、生年月日、ワクチン接種履歴、病歴、血統証明書およびマイクロチップ登録番号、かかりつけ獣医師名、飼い主名と連絡先などを明記）
- ☐犬用靴
- ☐防寒用の服
- ☐タオル類
- ☐キャリー／ケージなど



【首輪／リード】

避難時に欠かせない用品。
1 ベイズリー カラー・リード
 定番のシンプルでオシャレなカラーとリード。色違いでそろえてもOK。リードはナスカン付きなので、ショートにもロングにもなる2wayです。
 販売会社：有限会社 犬と生活
 URL：http://with-dog.co.jp/

【キャリー／ケージ】



2WAY ペットキャリー（片開きタイプ・両開きタイプ）
 キャリーとしてはもちろん、ファスナーを開くと広々としたケージにもなる2WAY ペットキャリー。外出先などで大変便利です。車のシートへの取り付けも可能。
 販売会社：アイリスオーヤマ公式通販サイト アイリスプラザ
 URL：http://www.irisplaza.co.jp/

【テント】

避難所以外での避難生活に使ったり、ペットの居場所として使ったりできるだけでなく、プライバシーの確保にも役立ちます。簡単に組み立てられるテントも多く、行楽時にも使えるので、家族に合わせて用意しておく便利です。

【ガムテープ／カッター／マジックペン】



伝言を書いたり、段ボールを使って仕切りを作ったりと何かと活躍。愛犬をつないでおくときも、飼い主の連絡先などを書いておくことで安心です。

愛犬を迷子にしないために

災害時は犬の迷子が多く発生します。一度離れ離れになってしまうと、運よく保護できても飼い主がわからないというケースが多いものです。愛犬の安否がわからずに苦しんでいる飼い主さんも少なくありません。

ただ、飼い主の連絡先を記した首輪だけでは何かの拍子に外れる場合もありますから、確実に身元がわかるマイクロチップを合わせて使うのが良いでしょう。携帯電話にも写真を残しておくことで役立ちます。



【マイクロチップ】

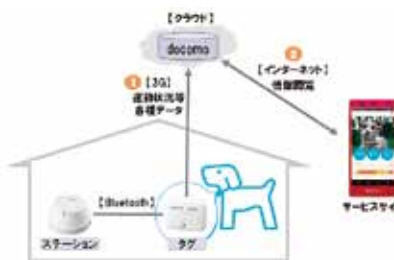
マイクロチップは、動物の体に埋め込んで飼育者データを登録し、身元証明に用います。読み取りには専用のリーダーが必要ですが、マイクロチップが脱落したり飼い主のデータが書きかえられたりする心配がなく、最も安全な方法として、現在世界中で広く使われています。



【鑑札／迷子札】

マイクロチップのように専用のリーダーがなくても災害時はそのまま見てわかる迷子札も必要です。また、避難所では狂犬病の予防注射済票がないと犬を受け入れてもらえないこともあります。常時首輪に必ず犬鑑札と狂犬病予防注射済票、迷子札をつけておきましょう。

【GPSで位置を把握】



愛犬の今の様子や居場所は NTT ドコモのネットワークを使い、スマートフォンなどで簡単に確認できる。



愛犬の活動状況は「寝ている」「休んでいる」「歩いている」「走っている」の4つに分類してアイコン表示。いつでも、愛犬が今何をしているのかわかる。

ペットフィット

現在、首輪にGPS端末をつけておいて犬の位置を検索できる装置も各種市販されています。NTT ドコモの『ペットフィット』は、愛犬と離れていても、スマートフォンなどで愛犬の状況や周辺温度、居場所などがわかるサービスです。
 販売会社：株式会社 NTT ドコモ
 URL：https://www.docomopet.com/



スマートフォンではアプリを無料でダウンロードすることで使用可能。



ゲリラ雷雨発生の30分前までに危険をお知らせ。

ゲリラ雷雨防衛隊

雷鳴が苦手な犬は少なくありませんが、そんな愛犬に役立ちそうなのが『ゲリラ雷雨防衛隊』です。ゲリラ雷雨による災害を少しでも減らしたいという想いから、2008年よりスタートしました。早めに雷雲を発見し、ゲリラ雷雨の予測をメールで知らせます。散歩中にゲリラ雷雨情報をキャッチしたら、早めに帰るなどの対処を。
 販売会社：株式会社ウェザーニューズ
 URL：http://weathernews.jp/door/html/guerrilla2014/



晴天時のスマートフォンの画面（左）。台風が近づくと台風表示がされる（右）。



ゲリラ雷雨 Ch. はゲリラ雷雨の危険度を示すマップや雨雲レーダーが参考になる。

気象情報は早めにチェック

突然起きる地震とは異なり、台風や大雨などは予想がつきます。台風の位置や勢力、進路などの予想情報や、大雨による土砂災害警戒情報などはテレビから得ることもできますし、インターネットで確認することもできます。

現在、気象庁のほか、株式会社ウェ

ザーニューズなどもさまざまな気象情報を発信しており、携帯電話でも防災に役立つ各種情報を得ることができます。台風が近づき大雨が予想されるときなどは情報収集を怠らず、必要に応じて愛犬と一緒に安全な場所に早めに避難するようにしましょう。

飼い主ができる緊急処置

<バイタルサインのチェック>

●呼吸数



胸が上下に動く回数を数える。胸の動きがわからない場合は、鼻の前にティッシュペーパーなどをかざすか、胸に手を置いて数える。通常の呼吸数は、小型の犬 20～30 回／分、大型の犬 10～15 回／分。

●脈拍数



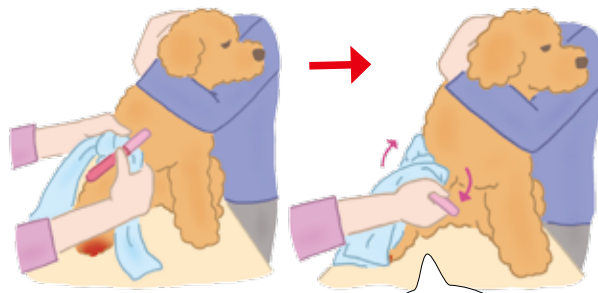
足のつけ根の内側にある太い血管に指先を軽く当てて脈拍数を数える。通常の脈拍数は、小型の犬 60～120 回／分、大型の犬 60～120 回／分。

●口の粘膜の色

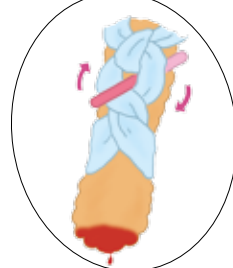


唇を上下にめくって歯ぐきや舌の色を確認する。健康時はピンク色。

<出血>



足からの出血が止まらない場合は、①傷口から心臓に近い部分を布などで巻いてしばる②結び目に棒（ペンや割り箸など）を通し、棒をねじって血液の流れを止める③そのままにしておく組織が壊死するため、5分おきに棒をゆるめて血流を再開させる④出血がおさまったら棒ははずしてよい。



<やけど>



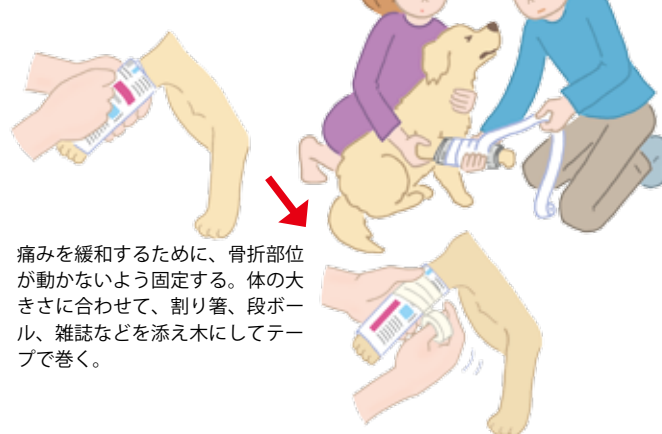
すぐに流水や氷水などで冷やす。皮膚がむけていたり、水ぶくれができたり、広範囲にやけどをした場合は、患部を冷やしなからずすぐに動物病院へ。

<熱中症>



熱を下げるには、たらいなどに水を張ってその中に立たせるのが効果的。できれば肘くらいまで冷やすとよい。保冷剤や水を入れてぬるくならないように注意を。

<骨折>



痛みを緩和するために、骨折部位が動かないよう固定する。体の大きさに合わせて、割り箸、段ボール、雑誌などを添え木にしてテープで巻く。

<運び方>



ぐったりとしている場合は、バスタオルなどを担架代わりにして静かに運ぶ。不用意に抱きかかえると、痛みを感じて咬むことがあるので注意。



大型の犬を運ぶ場合は、犬の首の下とお尻の下に腕を回して犬の体を自分のほうに引き寄せてから立ち上がる。飼い主の背中を傷めないためには、背筋を伸ばしたまま踏ん張って立ち上がるのがコツ。

<保定のしかた>



腕を犬の首のまわりにまきつけ、もう一方の腕を腹の下に入れ、ひじの内側で犬の体を押さえながら、自分のほうへ引き寄せる。犬が苦しまないようにしながらも、力を入れてしっかりと押さえること。声をかけるときは落ち着いた声で。

パニックになったときは、飼い主が寄りそうのが一番

災害時だけでなく、雷や花火の音などでパニックを起こしてしまう犬は少なくありません。暴れて逃げたり、ぶるぶると震えていたりするときは、優しく声をかけてそばに付き添い、抱いてあげたりなでてあげたりしましょう。愛犬が一番落ち着くのは、飼い主さんがそばにいて体を触ってもらっているときです。

ただし、飼い主さんも手を出せないほど興奮している場合やケガで痛みがある場合は、刺激しないよう静かに対応しましょう。目を合わせずに後ろや横を向いたまま、体を少しずつくっつけていき、落ち着かせます。

●バイタルサインをチェック

呼吸や脈拍が極端に速かったり遅かったりする場合や、口の粘膜の色が白っぽかったり紫っぽい場合は、急ぎ獣医師に診てもらいましょう。

●骨折・打撲の状態を確認

落下物などで打撲を受けたような場合、飼い主の自己判断は禁物です。必ず病院で診てもらいましょう。

足を引きずっているときは、骨折をしていたり骨にひびが入っていたりすることがあります。その場合、足を触るとひどく痛がりますから、すぐに添え木を当てるなどして固定して病院へ運びましょう。

いつもの歩き方ではなくても、足を触ったり曲げたりしても痛がらない場合は問題がないと思われま。しばらく観察し、それでも気になるときは病院に連れていくとよいでしょう。

運び方や保定のしかたに注意する

非常に具合が悪い愛犬を扱うときは十分な注意が必要です。痛みがあると、恐怖感や痛みから暴れたり、飼い主さんに突然咬みついたりする場合がありま

どんなことが起きるかわからない災害時、緊急処置の方法を知っているだけで大事に至らないこともあります。ふだんから役に立つ緊急処置の方法を知っておきましょう。

室内飼いでふだんは首輪をつけていない犬が家から飛び出すと大変なことになります。どんなときでも「マテ」や「オイデ」のコマンドに従う犬にしつけておきたいものです。

愛犬の状態を確認しよう

災害時は誰もが余裕を無くしてしましますから、愛犬の健康状態に注意して早めに対処するようにしましょう。

また、ケガをしていなくても、食欲がないときは、精神的なストレスなど、何か問題を抱えていることも考えられます。あまり長く続くときは一度診てもらいましょう。逆に、少し元気がないように見えても、食欲がある場合はまず大丈夫です。

す。扱い方によってはよい痛みを与えたりケガを悪化させたりする場合があるので注意しましょう。

また、運んだり応急処置のために保定したりするときは、急に動かさず、犬の体の向きやよじれにも注意しましょう。ぐったりと横になっている場合は、できるだけその姿勢のまま運ぶようにしましょう。愛犬を安心させるよう、落ち着いた声で励ましながら慎重に扱いましょう。

症状に合わせた止血方法を覚えておこう

切り傷を負ったときは、患部を水でよく洗い、出血している部分にガーゼや清潔な布をしっかり当てて止血します。ガーゼに血がにじんでも交換せず、そのまま圧迫止血を続けましょう。足などから大量に出血しているなかなか止めることができないときは、上図のような方法で失血を止めます。

災害時、犬に多いのは肉球のケガです。浅い傷なら自然治癒しますが、ガラスなどで深く切ってしまうと、止血剤を使っても出血が止まらなくなります。すぐに病院へ運びましょう。